

慶長見聞書

新装

庫	文	閣	内
一五〇函	一三架	五册	三三二四號
			和書

五止

136  
閣

内閣文庫	
番號	和 33124
冊數	5 ( 5 )
函號	150 65



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

國  
發  
敷  
以  
冠  
相

慶長十八癸丑年

正月初日大風吹秀頼屋者為瓦波府

大野之馬

二日大風吹江戶河邊神者

左

越後女房

西出

松平丹波

右

中及波河

小室宗三

松平介記

波河

一、波府之大野河山喜野、河出坪子、及  
可出由、三月節、

七日回中... 御... 出

八日... 御... 出  
昔... 孫娘... 嫁... 文...  
... 娘... 許  
... 中... 御... 出

同九... 御... 出

同十... 御... 出  
御... 出  
相... 御... 出  
... 御... 出

... 御... 出

... 御... 出  
... 御... 出

... 御... 出  
... 御... 出

... 御... 出  
... 御... 出

... 御... 出  
... 御... 出

... 御... 出

北國肥前守の御物と有る

けだいふね 今昔の故郷の事

將軍の御物に申す限りの事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

今昔の故郷の事

二月二日大坂町事... 三ノ丸を占めたり

二月三日... 將軍の御命に奉りて

奉旨に... 御命に奉りて

三月朔日... 大坂を占めたり

四月二日... 大坂を占めたり

坂崎野島... 大坂を占めたり

五月... 大坂を占めたり

將軍の御命... 大坂を占めたり

大坂を占めたり

六月... 大坂を占めたり

七月... 大坂を占めたり

八月... 大坂を占めたり

九月... 大坂を占めたり

十月... 大坂を占めたり

十一月... 大坂を占めたり

十二月... 大坂を占めたり

大坂を占めたり

大坂を占めたり

大坂を占めたり

大坂を占めたり

一 左馬督、備前、回、波、海宮、口、浦、流、路、出、羽  
波、作、付、波、白、左、右、系、同、同、記、若、系、右、系、波、出、羽  
伊、本、長、門、文、德、寺、存

一 若、尾、志、平、同、同、馬、弓、和、同、和、浪、口、左、馬、督、存

一 依、尾、系、左、馬、加、賀、丸、左、馬、宮、川、口、浦、存

一 若、和、同、小、出、大、和、弓、波、目、口、依、尾、右、系、右、和、弓、波、成

保、科、野、正、尊、存、江、存

一 甲、別、為、江、至、治、回、流、為、左、馬、大、多、原、右、之、事、存

甲、別、武、回、口、大、尾、波、弓、精、栗、子、也、存

甲、之、者、右、信、言、右、之、見、口、右、在、同、名、口、右、之、存

新、之、感、口、右、之、存、口、右、存、口、右、存、口、右、存、口、右、存

也、甲、別、口、入、回、口、右、目、下、ア、右、之、存、口、入、同、目、見、存

河、新、造、伊、口、指、系、若、河、川、夜、口、物、取、若、口、風、口

口、指、系、若、右、邊、口、下、桑、木、風、口、取、若、口、風、口

口、成、口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存

同、名、口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存

口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存

口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存

口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存

口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存、口、右、之、存







九月十七日大所判極後府出立廿七日江戸所  
着

一 九月十九日江戸西ノ凡々天名論議申聽同

一 九月廿七日江津ノ城立大之保法古事考法名法

近年大病人今と云過法名考

一 十月朔日諸大名大所判極後府有之計日志願

里ノ權後事口改易當座事由也云氣多源七

久貝忠丸事申勘當是ハ芝草中村一角事

一時为上段事申諸名具如何之在法名

言と事考云保石ノ石別ノ言山下向ノ所

此ノ石見ハ一五源台公ノ保石保石山由事

此保石大之保石ノ保石事由事申勘當

芝草物申勘當改易事申勘當

勘同有之れ其由此世を絶て身を加へけと云

おろしと云改易事云

同月廿七日芝草日氏無志信小野寺ノ者申送り保石  
侍たる者勘同に違令いきて無考と申送るも芝草  
自害しとある

一 芝草河保子見ハ改易中村一角事考云三人と

年後府にお法事考云見ハ改易事申勘當

後府にお法事考云見ハ大所判極改易事申勘當

信長秀吉の二師時より吾道一人也  
特及多原の形記より移居をいふ事一同盟之義也  
一 會成初の事也一 後多原の事也

一 同日信濃の垣高より事對史有富同負

小成口改易を以て坂邊者人と討信濃をいふ

入し信濃依為家者抱重浚事波る及是派

此去技指す致といふ追拂といふは海軍の信濃

波者波下波一重入之派を以て今技指す

露取のり行別ハ伊豫に中方石の事軍勢也

一 九月の事松七とて七の改易主元を記しけし

子年の改易の後在江戸に事の事平別赤

敵とてなるなり

一 同日大所新橋戸田の事野中とて分也

所産若甘浦和太監の事野田海の事野中

二月廿九の事大所新橋戸田の事野中

信濃河海の事大所新橋戸田の事野中

同日信濃高野の事大所新橋戸田の事野中

一 塔の事山津法寺の事大所新橋戸田の事野中

波百姓と波奴は事大所新橋戸田の事野中

一 三月の事大所新橋戸田の事野中

一 四月の事大所新橋戸田の事野中



可之由の候に付

一 同十八日 主と新田喜之助迄移り居候次第毎

此敷お朱弟代末岡也と慶長十一年 御召位

之後一院主と所父子と申す和合人出入毎

所母道信の女后一院を家康公に譲言ひしに可

然由に一院を為周親公に腹見の心付候に

付以譲りし書物に不信の儀候に院に所願

二子石山より自由基河慶し御願を石宮主人

主人者道清後累代是の信守親王御宮に候に

院に所願に主と所年十一今と所中高宮に候に

一 同十八日 大御所御願候旨に御意に 御出候

川越御願

一 廿六日 將軍家より大々原を換りし御旨と云

我河西國を利支丹に家門に法度、お願

ありと云ふと委由あり候旨可之由に付

一 同十八日 大御所御願候旨に御意に 御出候











百余人肥前長崎より糸連丸押し

山崎の横山家より之にして是を是と

身し長安より今日国道南雲江流

同九。將軍校右大臣少輔任

一月二日若甘より河内守免

二月三日酒井雅樂助渡河を是を是と

所定に死也。大所別家より度の雅楽助

去先入内膳物より

同市如賀清言利長

同六日天谷此三門跡山下向山流

天谷少海識は同石山

今年播磨河内を渡渡水也

本日台渡河より所付肥前長崎

去利支丹少禁法去利支丹大し紀

山に長谷川を是と追追

青丸頃洛陽の古佛種洛回

家安康

謀りし

Vertical marginal notes in red ink on the right side of the page, providing commentary or additional details.

Vertical marginal notes in red ink on the left side of the page, providing commentary or additional details.

Vertical marginal notes in red ink on the left side of the page, providing commentary or additional details.





茂木の毫しよ由

同日三時大所新校の尾張軍相及二司引幕

同日三時大所新校の尾張軍相及二司引幕

白旗に進む同日の夜存とては出陣の旨後あり

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては

一 日曜法大名の陣れ用意可仕とては



十三日大河洲原京河原 今の大坂城の所又自境

大坂の山は徳川家三木を以て東山といふ也此の山は徳川家の山也

十四日 奥羽 奥羽の人教の先にとりし

十五日 將軍隊江戸に出陣 津名川河

江戸河原守兵 村と岡原也

と総ふ殿 津名川河 出陣侍従多士在東亮

相平下野も酒井備後も河原若狭もいふ

十六日 將軍隊友江沙河 出陣の事

十七日 大河洲原 日大地震 出陣の事

十八日 和泉吉野 人教河内國府陣

十九日 清和河

二十日 河内國府 人教河内國府陣

二十一 河内國府 人教河内國府陣

二十二 河内國府 人教河内國府陣

二十三 河内國府 人教河内國府陣

二十四 河内國府 人教河内國府陣

二十五 河内國府 人教河内國府陣



所あるとわかれしものなる道なり  
同日しつらむる事ありしに  
九日付見 九日の事ありしに

十日付又も今日も多分渡り着候由也

十一日付又も今日も多分渡り着候由也

十二日二条城に在りて大印所候所  
十三日大印所候所  
十四日大印所候所

十五日大印所候所  
十六日大印所候所

十七日大印所候所

十八日大印所候所

十九日大印所候所

二十日大印所候所

二十一日大印所候所

二十二日大印所候所

二十三日大印所候所

二十四日大印所候所

二十五日大印所候所

二十六日大印所候所

二十七日大印所候所

二十八日大印所候所



上極河野西之

一 日合大雨海日同五

一 河陣押此事

一 書酒井丸出尉組

一 松平甲斐守 松平大信守 小笠原若狭守

一 福津小次郎 水谷伊勢守 仙石若部

一 仙石大和守 相馬大膳亮 六卿之庫物

二 高木多由重守組

一 志田河内守 淺野宗女正 松平石見守

一 松村之膳 一父之白備 沼田掃部

秋田城之令

三 青柳系遠江守組

一 松平丹波守 小糸出羽守 高田左衛門

一 羽田多太郎

近江守 保科肥後守 小笠原若狭守 河内守 高田守

三善大舟大炊頭廻

伏久間備前守同大膳正

堀清政守同内侍左衛門

高力九郎守同内侍左衛門

三善大舟大炊頭廻

又善酒井雅樂頭廻

細川三善守同内侍左衛門

大子掃部守同内侍左衛門

高尾大舟大炊頭廻

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

羽栗守代守

溝口伊豆守

由良信濃守

三善大舟大炊頭廻

又善酒井雅樂頭廻

細川三善守同内侍左衛門

大子掃部守同内侍左衛門

高尾大舟大炊頭廻

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河旗本大善守同内侍左衛門

河小川組

水野監物

板倉圓房

井上守次

成瀬豊後

河原備

安友對馬

同

中多依波

同組

中多大隅

菊岡大和

菅谷九郎

武川元

由利元

沙弓口後炮元

立花左五

日根謙忠

那須元

津金元

南部信清

岡口照正

友田龍登

菅田元

秋元部中

酒井玄敏

河原備

河原備

大河新編

大河青頭

水師後後

松平右足

松平出雲守

永井左近

西尾丹後守

保坂合左衛門

大田三左衛門

大河新編

河津連

水師後後

松平右足

松平出雲守

他侍

永井左近

西尾丹後守

保坂合左衛門

大田三左衛門

河津連

保坂合左衛門

大田三左衛門

小坂新介

戸田又久

伊東大目付

甲別在書

横田長右衛門

所使番

...

小泉又市

山下新太郎

志田清次

初藤傳吉

城和泉

服部松左

奥山次郎

近木久太郎

清浦九郎

高宮桂介

切多友之助

清水権一助

系田友九郎

佐多河内

山城文四郎

津川豊前

尾倉丹後

河原

長原

以五人、心障中、斗、長原、大、小

川原

坪内宗美 五人

松浦市 五人

安信 五人

渡色

舟屋

室加

之、没、入、河、原、中、斗、長原、大、小

香

村

佐

河

中

目

加

舟

香

日中詔六年八

牧野清康

相子豊前守  
日服

阿部左馬助

相子志摩守

相子右馬助

三木右馬助

清同次郎  
五代執中

三木右馬助

小幡勝  
三木

藤澤海平助

多門清友助

戸田七郎

將軍様

沙旗守

同

沙旗守

冬陣御儀

十八

五陣御儀

仁文帖

藤原公家

河使書

田原行記

河原行記

河原行記

河原行記

河原行記

河原行記

河原行記

稻坂石之丞

今村義之丞

中川建之丞

久貝忠三郎

小沢源三郎

山本重之丞

阿倍宗三郎

河原行記

河原行記

河原行記

河原行記

河原行記

河原行記

河原行記

河原行記



河使書

田原行記

大津城

河使書

河使書

河使書

河使書

河使書

稻坂石之

今村石之

中川石之

小沢石之

久貝忠三郎

山田石之

阿倍石之

河使書

河使書

河使書

河使書

河使書

河使書

河使書

河使書

河使書

河使高

之陣肥後河身

渡邊武正

安友八重

川口長三郎

水田長吉

相原源六

之陣肥後河身

之陣肥後河身

水田長吉

相原源六

河身

河身

山崎重幸

水田長吉

水村源吉

安友八重

水田長吉

河身

河身

外記

日友吉

所持筒

大廻

只怪以

只怪以

吉山公記布

吉斗所依  
日友若狭

吉山伯耆

吉友若狭

三枝大依

吉友若狭

吉友若狭

只怪以

吉斗所依  
吉友若狭

吉友

吉友若狭

吉友若狭

吉友若狭

吉友若狭

吉友若狭

吉友若狭

吉友若狭

吉友若狭

吉友若狭

大河新様

心未の氏

大河新様

河書院の少性担て支配

但用路の御系は  
百陣中担てお取は  
支配は

諸道具在り

銃炮

弓

出前

桂村志麻呂

日友之秋

松平四郎

安部河平

松平右兵衛  
松平左兵衛  
松平右衛門

秋山平太夫

若川又右

中山初子甫

津首よ七

山角又美

伊友新十

津首よ七

小野又美

若川又右

山角又美

河平又美

甲 麦陣ハ銃炮

但麦陣ハ中山後番ニ多ク是ハ

麦陣ハ

名刺

秋山平太夫

浅井六郎

五味八右衛門

山崎九郎

河田八郎

市川平太夫

若林小七

高田八郎

友河平太夫

相馬平太夫

日友平太夫

軍法

一 喧嘩口論 兇行 正心 正氣 遠宵 軍法

一 五節 理北 双方 九 謀 得 走 一 式 八 親 親 臨 也

ちあひを返或宵知者のぬより所擡に族  
お有れを用擡よきおして、後日あふれ吾も人  
下為科事

一 之より指越紙張令高名宵軍法と云ふ交  
違科事自之よりふお理ら物之と云ふお交  
一 甘子洞に代へ使に相交事有し、武具馬  
可ぬし若し之人お及者ゆき吾取曲事  
な事

一 人教押し時服道は、くきくく、  
一 法のまじり人、くく、  
一 時、  
一 下、  
一 持港、  
一 陣中におあり馬を、



大坂より一向寺。宗長はあつたをいふやうに  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。

右藏多満よし法と合敵と討つる阿波も家康  
織部抱口の尾に二人。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。

阿波もあつた。宗長はあつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。  
あつた。いふやうに。あつた。いふやうに。あつた。



砲を打つるに打つるに人々を驚かす  
 一切の事柄も伊勢元平野の佐吉の陣に  
 一 大目城中より下へ流氷河馬をいれり  
 各城中より下へ流氷河馬をいれり  
 今河浦渡を断つて上へ流氷河馬をいれり  
 之焼合を為す城の中へ進入し大坂の向ふ  
 一 天王寺 一 東白山 一 今宮下 其外一  
 一 人々を驚かすに人々を驚かすに人々を驚かす

一 善治の今編 一 守りて天満のるに  
 一 二月廿六日今編のせり公に敵を驚かす  
 一 山布の今編 一 老老のるに大坂の陣に  
 一 京膳也  
 一 蒲中城の今編 一 老老のるに大坂の陣に  
 一 陣に人々を驚かす 一 依行義也 其の照城尾の城に  
 一 陣に人々を驚かす 一 子胡の今編 一 後若伊友右馬允  
 一 善治の今編 一 善治の今編 一 善治の今編

しるしを繋ぎし向き居口か一可符先と柵とより去  
可か一可ば符とて又柵より入り居るは符と  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは符と  
仕行れ符は居るはより居るは符と居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
破るはより居るはより居るはより居るは  
由るはより居るはより居るはより居るは

しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは  
しるしを繋ぎし向の柵と居るはより居るは







一 細一書院別主瑞少討死入

一 依竹元吉少成進の由は浪江内様今相軍

子有門元之進之儀古跡味方と云ふ

お我しは是、續き白土少少野原あり

小回部お吉と多相と双し討死は内様首

いふ事と云ふ方打た依竹元吉進之儀

系勝内村系常陸大和川と云ふ事

浅深と云ふ事河と云ふ事

母て川と云ふ事毎大源一味方と招き

大和川と云ふ事敵陣進く備て横

敵進く事しては依竹元吉は利一同

大坂と云ふ事大坂打たる事

少威と云ふ事依竹元吉討敵と進

と云ふ事大坂信田之及成我方相

一 依竹元吉今瑞表 一 戦事名目録

一 依竹元吉今瑞表 一 戦事名目録

御威此年 貴人之族也 行御威  
頂戴

黒沢島屋

首一 秀郎和泉

及川直之

首一 孝子

浪江信之

首一 孝子

江尻軍兵衛

首一

小野塚政之

首一

梅津半七郎

首一

湯川内膳

首一

若尾半三郎

是より御方和野同様に

梅津半七郎 敬收 奉 命 我 之 打 挂 船 之 旗 打

梅津半七郎 敬收 奉 命 我 之 打 挂 船 之 旗 打

片岡又右衛門

首一

加茂直之

未訂之者

從 秀 忠 之 御 威 此 年 貴 人 之 族 也 行 御 威 頂 戴

戸村十右衛門

御威此年 貴人 之 族 也 行 御 威 頂 戴

佐古内膳

御威此年 貴人 之 族 也 行 御 威 頂 戴

大塚久兵衛

首一

坂之谷守備

首一

高尾金満

首一

滑川金満

首一

吉成金満

首一

小川金満

首一

大和源金満

首一

三橋源金満

右頭公十五以外付捨りぬ敷

大町の辰未取付  
子負目録

法成

奥旦再夜忌  
十三日未取

梅津中重

法成  
法成  
法成

三月廿六日未取  
討死

戸村中重

沼江中重

白土中重

山中源重

三橋源重

小川源重

中村源重



塩津部在

河内山在

之江見在

其山見在

相見在

其山見在

加見在

滑川見在

首論

江軍在

從城中見

其山見在

款と移花、向く打多、花、竹回、多、庫、大、助、是、村

古、助、小、早、川、在、是、等、と、移、子、一、打、花

塘、尾、山、城、也、及、浦、の、山、平、と、山、是、量、緒、川、の

洲、清、の、横、矢、は、鉄、炮、打、と、も、母、取、の、山、の、勢、も、く

同、及、鉄、炮、打、と、も、の、款、多、對、引、右、水、入、引、入、夜、入

ゆいぬおささねはたけのり

一 詔 湯島よりさへ海軍を押し寄せ追拂は陣をよ

生捕三人の陣に敵と相又秀頼の北をたて敷き、尾ハミテ  
玉てりしは射也

一 廿七の條 友村表ハ廣くもきりたれど詔取らしまり

新いかに隠し、陣に敵のるふえ味方、子貞出ま

右し新かり押し陣をよる川に居ては陣

一 同日 大所前 詔 湯島村表と相取らるるは、陣に

百挺のしんを詔の来る、向し打ちたれ詔も

今日 湯島中、初使と居居る西三條大

細云 實條のあら、友所前 詔 湯島

今日 大所前 詔 湯島中、海上野とをきあはるる

一 廿九の條 詔 湯島、河、大詔とつけ詔も昔

九 湯島中、人、を、陣、を、相、と、は、き、せ、あ、る、と、い、は、る、人

ね、あ、る、と、い、は、る、人、を、陣、を、相、と、は、き、せ、あ、る、と、い、は、る、人

と、い、は、る、人、を、陣、を、相、と、は、き、せ、あ、る、と、い、は、る、人

中村右近、以下、湯島を押し、あ、る、人、を、陣、を、相、と、は、き、せ、あ、る、と、い、は、る、人

このみ清く記すしはなほなほよしとあるも  
只ながあての公戦はらふ家なきはなほ  
右と後下をいひらるる記中の公戦は又あるは  
や行時とあるは記とあらざるは再なるは  
一の右と後下と一の右とあるは  
一とより清く押よる門は後ゆえに人を教と  
わらわらる記は清のきと居りしは記す記  
隣とより相向し入法を合ふは二と後ゆえに押  
あらわらるる記は清のきと居りしは記す記

あらわらるる記は清のきと居りしは記す記  
同じき事いふはなほのりなほなるは  
とら下も同封あるは東同友は東は度加たは  
あらわらるる記は清のきと居りしは記す記  
一は同封あり記すしはなほなほよしとあるも  
記すしはなほなほよしとあるも  
横川は清く記すしはなほなほよしとあるも  
ろくが記すしはなほなほよしとあるも

陸(とりて)款ハ存ニ在ルニ改メテ款ニ改メテ  
系ハハ時ニ付カカル事トシテ傍ノ諸君ヲ集メテ  
カノわりニ書キ立ル事トシテ取テ  
一ノ中ニ款一人隠カシテ見ル傍ノ諸君  
カテ款ノカシテ出テ見ル事トシテ  
一ノ中ニ款一人隠カシテ見ル傍ノ諸君  
カテ款ノカシテ出テ見ル事トシテ  
一ノ中ニ款一人隠カシテ見ル傍ノ諸君  
カテ款ノカシテ出テ見ル事トシテ

有テ款ハ公方ニシテ在リ者ハ傍ノ諸君  
脚ニテハ其ノ事ニテ其ノ事ニテ其ノ事  
石川ノ友ハ其ノ事ニテ其ノ事ニテ其ノ事  
地ノ下ニ押カシテ其ノ事ニテ其ノ事  
中ニ其ノ事ニテ其ノ事ニテ其ノ事  
七ノ捕三人トシテ其ノ事ニテ其ノ事  
一ノ波表ニ其ノ事ニテ其ノ事ニテ其ノ事







未討其款也。是日。出令。之。持。石。向。討。其。田。  
南。保。中。野。之。一。其。あ。り。櫓。を。し。後。炮。の。美。り。と。  
け。る。之。火。急。よ。と。け。る。と。小。き。櫓。一。様。の。是。と。之。ら。  
城。を。元。款。よ。り。か。つ。の。者。け。り。と。け。ち。る。飛。撃。の。  
之。陣。を。く。物。を。入。柵。と。な。す。城。へ。け。り。と。け。り。と。け。り。  
款。後。炮。と。揚。く。打。之。り。の。城。を。元。之。の。是。に。け。り。  
よ。り。東。の。方。に。と。り。大。塔。討。死。せ。り。と。け。り。と。け。り。  
城。を。元。之。の。方。に。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。  
之。陣。を。後。と。之。に。後。の。飛。撃。の。由。大。河。新。保。の。陣。に。け。り。  
之。を。元。之。の。方。に。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。  
三。の。陣。を。元。之。の。方。に。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。  
之。を。元。之。の。方。に。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。  
掃。討。の。由。に。神。を。元。之。の。方。に。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。  
之。を。元。之。の。方。に。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。  
之。の。由。に。神。を。元。之。の。方。に。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。  
善。元。女。人。を。元。之。の。方。に。け。り。と。け。り。と。け。り。と。け。り。



安友節の成瀬半人度書元六人馬六二人

小者九歳中三歳友多和泉陣場の巡又

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

巡又和泉の只一隊の住り又和泉陣場の

今所記の事は東の事なり

中野由中

一昨日申、惣責と申すは

中野由中

今日將軍家より陣へ

三ノ段

一宰相及中將殿同

一大臣の御方

幸ふは城へ

一

一

一

一

一

一

一







しるす款はもろ山城の法に残るはかたはる智  
の討ちしる

二月と句。三夜名古名。限の子貴。あつたしとて

一 けり。あつたしとて。けり。あつたしとて。けり。あつたしとて。

一 是の。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 風。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 ねらん。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 英凡。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 八日。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

陣。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 大。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 下。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 石。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 署。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 流。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。

一 産。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。あつたしとて。



一 馬田右衛門佐助の同改定とせむ事ありし事ありし事ありし  
しりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
初とせし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
乞令旨御事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
御事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
し事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
下りし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

一 各名家惣持の咄の寸同世同の事ありし事ありし事ありし事ありし  
御時より負死人数の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
炮の甲ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
以平下名ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし  
陣の後後より陣の林系をとりし事ありし事ありし事ありし事ありし  
上方に流後後陣の京宿後後陣の暗野の事ありし事ありし事ありし  
丹波宮二九の牧野後河の陣の事ありし事ありし事ありし事ありし  
よしと扱本ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし



後炮二打由は子り給ふ。しるは

一 津津陸奥も人勢より辛志く回さるる

二日津美ら海路次風等し由し途中に近

河津津付らるるあまき軍陣中田津尻後か友

肥後も陣無用と云ふは三人より無か陣を清

玉飛の沼あり心きはあきとあ板と交ぬけを

一 土可支所抄極陣中とあるは又天海の陣場城

と入心あり城中に後炮より射るあり

上野の句柄あり事と云ふは

右を所前と云ふは又予治は馬の

高の相秀志とも同の心は

矢方筒踪眼とあり射るは三貫目

五二三百葉摩ふ、持まらる目

一 四あつたの後、圖一と標し

以後炮を打下し人等と後方

所へ鬼神より事成りあり



一 法心、榮山、駒城、惣持と由下打後焼し、駒陣

子負あり、青く

物陣、並河、織田、法持、白、梅、お、晴、る。

一 大目、大野、三馬、付、園、志、令、お、法、城、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

あ、ふ、お、討、た、由、お、修、築、三、馬、の、城、中、お、所、持、の、御、あ、お

付、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

印、記、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

一 法心、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

一 三、馬、の、城、中、お、所、持、の、御、あ、お

お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向

お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向、園、志、令、お、修、築、阿、波、守、松、平、之、向



右に討てぬ。故人とて、殊に、河原屋の跡を

見るせしり。一、高橋屋と焼屋の

一、同。又、板いと、右に、如中、元、合、中、の、と、あり

け、板、の、心、の、積、の、大、坂、の、積、の、こ、こ、九、一、百、破、却、秀、頼

少、所、也、元、大、坂、の、心、の、積、の、あり

一、正、の、秀、頼、の、袋、の、板、の、安、岡、の、と、有、又、板、の

一、城、中、今、と、も、積、込、の、と、中、の、事、の、あ、り、一、の、法、地

の、あ、り、と、の、あ、り、と、の、皆、大、岡、と、用、今、と、も、一、百、名、地

故、一、の、女、岡、の、中、の、用、女、目、の、目、の、法、地、と、打

在、り

一、築、城、中、秀、頼、毎、日、お、掛、と、め、り、り、の、事、の、あり

精、入、る、よ、は、其、の、よ、信、り、信、り、の、諸、人、早、と、り、威

同、中、の、九、列、の、取、置、の、庫、の、あり、三、千、余、段、と、野、介、の、段、の、あり、  
可有、帰、回、の、由、故、作、り

一、今、の、城、中、の、切、り、の、り、の、の、同、東、の、お、法、の、新

武、士、の、軍、場、初、の、の、と、あ、り、の、も、と、の、大、子、の、古、和、法、友

一、元、二、年、今、言、り、新、町、人、新、町、人、又、は、中、等、事、の、あり

是書大印の如元中一書一紙の如く

おかしき事なり

一 此の如く是の如くは村々の部々馬の如くは

筆をたてし事なり

久矣はしむる事なり血精をたてし事なり

一 夫よりお軍の如く是の如くは

是より元とすの如くは

河部守房の如くは

一 是の如くは友人の腰指をたてし事なり

一 有樂の如くは

和泉の如くは

一 亦の如くは

焼合の如くは

はし

一 亦の如くは

一 河部 大坂の如くは

一 改宗の子長考家

後号考家

為國後法皇孫也

一 少く子長子名清順

石坂金伊賀明目可首末四例  
五と天酌一由一由云

一 廿一日大所別所末日

銀子板 綿 三白丸 印進と

院口浪夏綿 冕 印進と女院

銀音板 綿 白丸

一 女所 銀 五板 綿 冕

慶長二十九年

正月六

一 二日將軍家 印陳小軍勢 為...

美濃守 加子下 延守 尾山 東...

三日 大所別所末日 前 清四著 口 漆口

又日 飛心 古 素名 七口 名古金 九日

島崎 十 大坂之城別 一 州云と...

大所別所 末日 島崎 素名 大所別所 島崎

少道 島崎 素名 後 又 素三 及 別 今 少

張 山 由 一 大所別所 素名 島崎 大坂 大坂 後

素三 島崎 素名 別 一 島崎 將軍家 大坂 可 首

伊豆浦より

一 夫の志はより成りし事多し百の故  
出陣の事多し其の歳七十五に於ては境

一 大坂の皮口は堤湖入船入る迄

一 今の長官はなまを堤し代官は陣

一 天海川の夜は深敷の舟一西國へ船へ世か入る

一 夫の河人は其の事買ふる事と世に世に舟入

一 大坂の事十七の事は其の事と國の事と其の事と

伊豆

一 十七日右の事智友常陸の事と其の事と

一 十九の將軍の家は此の事と其の事と

一 事と其の事と

一 大坂の事と其の事と

一 此の事と其の事と

一 此の事と其の事と

一 此の事と其の事と



一 廿日將軍家二条の邸に参りて

一 廿七日、將軍家御朱印

一 今、信元叔母法重の御印

御朱印

左

御朱印

御朱印

御朱印

御朱印

御朱印

御朱印

御朱印

御朱印

一 同廿八日、將軍家御朱印

御朱印

一 二月七日、大印御朱印

御朱印

御朱印

一 同廿九日、將軍家御朱印

一 三月十日、秀頼より

御朱印

御朱印

御朱印

御朱印

事... 御... 美... 事... 事... 事...

御陣共 相別田...

相... 御...

御... 御... 御...

波府 久野丹波

名古屋 三宅又之

甲別府 延信内膳

相... 向...

能... 有... 此... 此... 此...

二条... 板... 菅...

和泉... 西...

本... 山...

波... 菅...

久...



一 古女雲列等 小笠原父子討死

一 沙合戦沙勝利

一 城攻之圖

一 秀頼生実

一 牛捕等成敗

一 古回切腹

慶長六年三月十日板倉伊賀守方吉生  
 大坂の款陣相張して東部のちとらるる風  
 少有り信し曰書院中々初の資抄さくく  
 と下發動し斗ふ一則其仔細有る相成り多  
 勇健相争り居る寺陣を極中とて守り護り相成  
 押取らば大派の人敷をせ一取捨を以て復し相成  
 し人と改り居る 古河所城の月日 政府の御出陣  
 也の軍勢の月日 古河の御出陣 古河所城の御出陣



のこしより大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
御書

一 昨日夜中より大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
父より大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
之を御軍と一味即ち大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
いふら別多兵衛大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
一 同日南の寺田を焼掛

一 松倉重後が寺田に討つに討つに焼掛のしるし  
筒井半左衛門と共に来る別多兵衛大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
このころ父より大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
奥國に討つに討つに焼掛のしるし  
大坂を焼掛しし  
押来りしハ大坂中野大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
後より大坂に討つに討つに焼掛のしるし  
とてしるし大坂に討つに討つに焼掛のしるし

京に於て是の如くは甲乙人押しの

事なれど中場は是れ令礼也

一 志良よは取合し是の事固ふらんを説く即ち

中陣と居ては取合後大坂と即ち是れ

是れ甲乙府に引合取合する事固ふらん

後陣は是れ七人捕まへて一人は漢武者

此人は難共之別令得得お討合はる事

一 若し是の如くは二条の城に是れ是れ是れ

お取合と申す事固ふらん事固ふらん

一 下野に於ては是れ是れ是れ是れ

是れ是れ是れ是れ是れ

一 三月廿七日。大坂の二条。是れ是れ是れ

と野。是れ是れ是れ是れ是れ

將軍は是れ是れ是れ是れ是れ

酒井雅樂は是れ是れ是れ是れ

一 是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ

大和の水野日向子等 ち和花ち和とよきり 砂に  
下たし二組とよき人などいふに 砂の御座り ち多  
き度より 砂の御座り ち多き度より 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り

一 大和の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り

織部正左衛門右衛門 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り  
砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り 砂の御座り



系は乃に板倉伊豆守とありしは乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に

一 乃に大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に  
ありしに大坂城中にありしに乃に大坂城中に





信長が河原田徳次郎を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、

河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、

信長が河原田徳次郎を討つて、

河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、  
河原田徳次郎の首を討つて、





王介お死の款川流如泉波流部多庫と塚あり  
源も亦系はらるる人平紀と申すは後七  
平十の家然つ一冊の書は助平の書と  
同日有るわが人叔一書は後七の書と同に  
葉名は公家一書は一冊の書は助平の書  
此道は助平の書は後七の書と同に  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
入替り款と進まをわが書は後七の書と

討多きし一冊の書は助平の書と  
進まをわが書は後七の書と同に  
如泉の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と

一 同たりあけり山後路の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と  
助平の書は一冊の書は助平の書と























詔曰及る多知家来亦尾初と由接川佐理者らぬは是  
系流系系に人々とていふをさき寺の事来昔ア流の  
おとそを原吉に討つてはるそ、お徳して保科  
紅後成し洋に流すとあはして軍人らおそり  
今のおとそ、お徳はふとて討つて流の負討つて  
おとそ、軍人らお徳はふとて討つて流の負討つて  
アお徳と流とて討つてはるそ、お徳して保科  
の才服初に流とて討つてはるそ、お徳して保科

信し方原たはふ  
大徳と抱ふ

又この後日二系と高身、討つてはるそ  
一 詔明石掃部西園寺高、他彼陣、大寺天王寺  
者、味方、敗軍とていふる天王寺、お徳して討つ  
てはるそ、お徳して流とて討つてはるそ、お徳して保科  
味方、大寺、敗軍とていふる天王寺、お徳して討つ  
てはるそ、お徳して流とて討つてはるそ、お徳して保科  
在回年、大寺、敗軍とていふる天王寺、お徳して討つ  
てはるそ、お徳して流とて討つてはるそ、お徳して保科  
之次、自、大寺、敗軍とていふる天王寺、お徳して討つ  
てはるそ、お徳して流とて討つてはるそ、お徳して保科











常陸分後田原之島 爲度は若く押ぬ若く

訪ふる人戦犯りも一とては人

長ら義兵の諸君一過の事此の

人殺とていふは誰か事しん

心持せしむるは多岐法に

あゝ業魔の押し業魔の

語る同陣麻人殺めは

美しむるは北はははは

の陣の事と上野父子人殺

た人殺し業魔の事

侍三人事し業魔の事

新しむるは上野の事

炮二つ打ちしは出度炮

切しむるは天正の事

一南の事

者







疾の如く尋常の如く下は流るる詩の如く  
舟船も其あまふ

一 七ヶし受行桐子の中一  
高物もし城へ入焼跡の如く  
まふに及る人々大器の如く  
竹田永為成の如く  
あまふく

一 疾の如く尋常の如く下は流るる詩の如く  
舟船も其あまふ  
後百日の中一  
大器の如く  
まふに及る人々大器の如く  
竹田永為成の如く  
あまふく















一 七月朔日二条に於て 山城後白河

一同七。二條及三條合禁中院中へ沙法が上

へ系が家へ沙法及上二条に於て介由家

法家へ法度の上定

一 七月十九日 二條後白河に於て 大内御所

御所

御所へ沙法及上二条に於て介由家

法家へ法度の上定

